

---

# 壊滅的な災害

ミミック

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

壊滅的な災害

### 【Nコード】

N4708R

### 【作者名】

ミミック

### 【あらすじ】

イツモどおり勤め先へ出ようとしていると・・・

## Part 1 (前書き)

下手な素人の作品ですが良かったら見てみてください。  
一応更新していくつもりです。

## Part 1

俺は電車に乗ろうとしていた。勤め先に行くためだね。

駅のホームで待機。なんかのどが渴いたので飲み物を買う。アクリアスだ。

まだ飲み終わらないうちに電車が・・・通り過ぎていった。何だアレ？まあ、まだ飲んでないし・・・まあ良いか。

駅の反対側のホームが騒がしい。なんだろう？

ん？ 何だあいつ？ フラフラしてる・・・まさかとは思うがあいつ生きてるか？つまり・・・あいつゾンビ じゃないか？んなまさか。とは思うが先ほどの電車の件があったので俺は駅のホームを離れた。

## Part 1 (後書き)

読んでくださった方々 アリガトウございます。  
1、2日後ぐらいに更新したいです。

Part 2 (前書き)

駅を離れたけど・・・

## Part 2

駅を離れたけど・・・俺、仕事もあるんだよなあ・・・こんな理由で休んだとかいえないしなあ・・・

駅のほう騒がしい。

うん、そんなのいるわけないか。ちょっと怖いけど行こう。

駅のほうに向かって歩き出した。階段の上から何かが転がりながら落ちてきた。

・・・いた。

人間の形だけど、それは・・・何というか・・・そう、まさにゾンビだった。

・・・逃げたほうが良いよね？俺はゾンビを背に走った。後ろからは追ってこない。どうやら走ってはこないようだ。

こういうときは、武器とかをどっかで調達してこないといけないような気がする。籠城しても破られたら絶望だし、逃げ回ってもどうにもなるものではない。

どうやら騒ぎは、すでに広がってしまっているようだ。500メートルほど走って、もう息が切れている。ゾンビはもう見えない。だが、ここら辺にも・・・いるようだ。

## Part 2 (後書き)

戦闘に入りたいです。



## Part 3 (前書き)

駅で見たゾンビのようなものから逃亡して・・・

声がする。普通の声ではない。うめき声のような……

このままでは危ないと感じた。人が食われているところを見たわけではないけど、最初に駅でみたあいつも、俺が逃げたあいつも……ボロボロだった。そのままの意味でボロボロ。体がボロボロ。見た目的に。見た目で人を判断してはいけないともいうが。

ひとまず……俺の持ち物は……鞆の中には書類が入っている。後は財布とかそんなものしか入っていない。あるのは筆記用具ぐらいだ。ペンを相手に突き刺すぐらいは出来るだろうが……そんなこととしても……効くのか？ まあ、無いよりはマシと言えないでもない。

今、俺の周りは家がたくさんある。住宅街だ。もしここら辺の人が……まあ 大変なことになっていたらとすると……ここらにもたくさん居るんじゃないか？ やっぱり。 でもなあ、確証もないし……そうだ、ここらの家に人がいるか確かめてみよう。人が居たら……事情を聞くぐらいしかないか。まあ、開けてもらえたらの話だけど。

俺は今、一軒家の玄関のドアの前に居た。インターホンを押しても返事が無い。まあ、もし本当に……事が起こってたら開けてくれるかは……普通開けないけど……よし、ここはこういう状況だ……庭のまどからみてみよう。芝生を踏む。窓に近づいていった。窓の向こうには、何か倒れている人があって、それを誰かが食ってるようなカンジ。倒れてる人の体はもうすでにボロボロだ。食ってるみたいな人の体もボロボロだ。俺は急いでそこから離れた。確信した。起こっている。コレは起こっていることなんだ。シヨックだった。本当だなんて……思っただけだが認識したくは無かった。あのまま何にも出会わずに救出されたかった。だが、現実はそのも甘くないもので……

・  
・  
・  
・  
・  
・  
・  
大群が向かってきている。

Part 3 (後書き)

戦闘に入れない。

Part 4 (前書き)

大群が向かってきている・・・

向こうから少しだけ見える。だが、それだけではなくうめき声が大きくなっている。確実にこっちに向かってきている。ペンでどうやって戦えっというんだ？頭にブツ刺せってか？・・・フー。落ち着け。落ち着け。大丈夫・・・逃げればいいんだから・・・だが、一応武器は持っていたほうが良いと思う。逃げながら探してみよう。幸い奴らは動きが遅い。

ここまで来るのにきずいた事があった。それは車だ。ここら辺の家は一戸建てが多くて、車庫とかもついているのが多い。・・・いい家だなあ・・・車庫があれば車もあるだろう。そこに今、車が無い家は、多分、車で逃亡済みか出かけてたんだと思う。となれば中にゾンビが居る確率は低いということだ。まあ、憶測だけど。何も考えずにいくよりは良い。

そこで、俺の前にある家を探索することにした。車が無い。車庫はある。だから。

さっきの家と似た構造で、庭がある。庭の置くにはプレハブのような物置があつて、そこを探索することにした。まさか、物置にゾンビが居るなんて事は無いだろう。だが、絶対では・・・俺は扉を走りながら開けて、そのまま駆け抜けて少し遠くから中を確認することにした。

俺はそれほど運動が得意ではない。といつても標準だと思う。身体能力は。いうならくらいか。・・・まあ良いや。行くぞ！走りながら物置の扉の取っ手に手をかけ、そのまま走りながら扉を開けた。そーっと歩きながら中を確認した。・・・どうやら杞憂だったようだ。考えすぎかなあ・・・俺は。

ひとまず中を確認する。外は明るいので少しだけ見える。

## Part 4 (後書き)

すいませんちょっといろいろあつてここまでしか出来ませんでした。

Part 5 (前書き)

探索・・・



## Part 5

・・・やっぱこの家は裕福なのかな。結構色々そろってる。キャンプ用品に・・・まあ他。

さて、何か使えるものは・・・掃除用具・・・箒じゃあ頼りないよなあ・・・キャンプ用品とかは色々使えるものがありそうだ。あと、工具・・・は結構使えそうだ。積み重ねてあるテーブルとかは論外として・・・お、向こうにリュックサックがある。アレに入れていけるかな。使おう。このバッグに・・・ゴム手袋・・・一応持っ  
ていこう。あと、武器として、工具類とかで大丈夫かな。

「そんな装備で大丈夫か？」「大丈夫だ。問題ない。」・・・コレはしとかないと。

スパナと金槌とドライバーを持っていくことにした。あと釘も。したいことがあるから。あと、カセットコンロがあった。ガスボンベも2本ほどあった。もちろんチャッカマンもあった。バーベキュー用の串に何か魅力を感じた気がするので、もって行くことにした・・・これらを入れてリュックサックは半分ぐらい埋まった。あとはなんかのために開けておこう。

俺がもともと持っていた鞆は、ここに捨てていくことにした。特に必要ないだろうなと思ったからだ。あ、でも・・・筆記用具は持っ  
つていこう。

もう大丈夫かな・・・あ！忘れてた！食料・・・大丈夫かな？途中で調達・・・できるかな。医薬品もあったほうが良いかな。無いに越したことはないよね。

ここで家の中を調べてみるかな。ゾンビもいなさそうだし・・・

Part 5 (後書き)

たいへんDA -

## Part 6 (前書き)

何か変な方向になってきました。

## Part 6

んー・・・やっぱりあいてるな・・・急いで逃げたのかな・・・あー、でもそうになると・・・

急いで逃げることって何だ？・・・ゾンビが侵入してきたら急いで逃げるに違いない・・・！！  
いるのか・・・ここに・・・？

結局俺はその家を離れることにした。もともとの目的である武器は手に入れたからだ。リーチも短いし頼りがいは無いが頭に直撃させれば結構なダメージを与えられるだろう。・・・考えすぎだな。俺。

今、俺は、コンビニの前にいる。さっきの家から15分ぐらいのところだ。ここに来る間、何体かのゾンビを見かけた。直接戦ってはいる。逃げてきた。が・・・いつかは戦うことになるだろう・・・  
・というわけで俺はここで色々貰っていくことにした。さあ入ろう。

## Part 6 (後書き)

次戦闘に入ります。ささっといきます。

## Part 7 (前書き)

戦闘にはいれたられたら良いな。

## Part 7

中はいつものコンビニと同じようだが、まだまだ電気は機能している。床に飛び散ったものやら気持ち悪いものが良く見える。・  
・俺は少し考えて、すぐそばにあった台車を持って良くことにした。

自動ドアもまだ動く。っていうか床に散らばってるものからしてもう・・・いるよな。・・・まあ良いや。覚悟はした。ここで倒せなかつたら後々大変になりそうだ。

棚の間にゾンビがいる。俺は向かってくるゾンビに向かって、押していた台車で体当たりをする感じで・・・ゾンビの足が押されて上半身が台車の持つところに当たった。まあ、これだけで死ぬはずも無く、俺はゾンビがたおれた台車から離れ、倒れたままのゾンビに・・・金槌で止めを刺した。頭を殴った。

・・・もう死んだだろう。頭も割れてるし・・・でも一応心配なので、もう少し潰しておくことにした。

・・・頭の原型が無い。・・・さて、食料だ。

俺は妙なにおいがするコンビニで、食べられるものを探して持つていくことにした。一応、他のものも。大体はパンで、スナック菓子・・・もある。あと、プリン。水。5本ぐらいか。そして、ビン入りの酒の酒を捨ててビンだけ持つていくことにした。

食料は大体3日分ぐらいか。プリンはあとで食べる。あと・・・絆創膏とガーゼ、消毒液、タオルをいくらか持つていくことにした。もう大丈夫か。

・・・ああ、プリンうめえ。

Part 7 (後書き)

難しいなあ



Part 8 (前書き)

銃も出したほうが良いかな・・・？

・・・さてと、これからどうするか。

俺はまだあのコンビニの近くにいた。やっぱり近くにも結構いるようだ。こちら辺に集まるって事は無さそうだけど・・・万一集まってきたら事だ。移動したい・・・が、どこに移動するか・・・だ。

正直な話、デパートとかに人が集まってゾンビがたくさん・・・なんてことはよくある話(?)だ。警察署も避けたい。避難民が集まって・・・とか。他にも考え出したらきりが無い。もうここは籠城するか!・・・今はまだ籠城する時じゃない。資材も物資もないし・・・もつとしっかりした武器が欲しい。

だからといって・・・狭いところも避けたいな・・・あいつらが侵入してきたらどっから逃げられるか分かったものじゃない。

しかし・・・夜になったら眠る所もあつたほうが良いよな・・・アパートか? 2階建てアパートなら、窓から逃げられなくも無い・・・か。一日分ぐらいなら物資も・・・ある。バリケードはそこに家具があるだろう。それで作ればいい。まあ、そこにゾンビがいないという保障は無いけど・・・そうだ、だからもつとしっかりした武器が欲しいんだ。

俺は、銃に関する知識は・・・一般人(俺もか。)よりはあつてもりだ。装填や射撃の仕方ぐらいは知っている。まあ、有名なものだけだ。

・・・よし、目的の建物を探す道中、何か武器になりそうなものを探しながら行ってみるか。

Part 8 (後書き)

時間が無い。

Part 9 (前書き)

グダグダになってきました。

・・・さて、これから使えそうな建物を探すわけだけれど、よく考えたらアパートなんて住宅街に行けば普通にあるじゃんということに気づいたので、さっき逃げてきた方向の住宅街に戻ってみることにする。さっきはゾンビが来てたけど、もう大丈夫だと思う。根拠は無いが。

・・・結構いるぞ・・・ここ・・・  
やっぱり大群が移動していたんだとしたら、幾らかいてもおかしくないか。

しかし、どうしても回避しづらい奴もいるので、近くにあったコンクリートブロックとかをゾンビに向かって投げた。頭に当たれば良いが、当たらなかった場合はとりあえず転ばせないといけないので大変だった。足払いすれば結構いける。(だが、やっぱり気持ち悪い。) そういう感じで逃げながらやってきた。

・・・という訳で、この2階建てのアパートに順調にやってこれたわけ。やっぱりアパートの中にも幾らかはいるようだ。俺はアパートの1室のまえにあった三輪車をひつつかみ、それでゾンビを撲殺していった。・・・まったく。武器はどうしたってんだ。道中、武器になるようなものがさうさう落ちているはずも無かった。石とかぐらいならあったが、とても武器にはならんだろうと思った。

・・・まあ、今こうして三輪車で倒せたんだけど・・・石でも大きければ・・・

アパート内の手近のゾンビをこの3つの車輪がついた鈍器で殲滅したので、今度は使えそうな部屋を探すことにした。1晩限りの籠城なので、さうたくさん持ってこなくても良いだろう。今もってるの

で十分。

## Part 9 (後書き)

コメントをいただけるとうれしいです。

Part 10 (前書き)

これ見てる人いんのかな？



## Part 10

さて、じゃあどこにしますかね・・・2階がいいよなあ・・・もう2階の部屋ならどこでも良いか。俺は、手前の部屋から確かめていった。1つめ・・・駄目だ。鍵がかかっている。2つめ・・・は、何だこれ、ドアが破られてる！何があったんだ？とりあえず避けておこう。3つめ・・・お、開くぞ、ここ。中に入ってみよう。でも、用心して。いきなり噛みつかれちゃあかなわんからね。

・・・ここにはどうやらゾンビはいないようだ。・・・でも、疲れたあ。今までの疲れが・・・あ、でも、これからまたバリケードを・・・作らないといけないんだ。ったくもう。

重い重い。テーブル重い！もうこれだけでも十分な気がしてきた。テーブルをドアに押し付けただけ。ここから出るときの事も考えて、あと少しだけにしよう。

・・・できた！といってもドアに押し付けられたテーブルに小さめの棚とかがのっけているだけだが。

Part 10 (後書き)

ああもう時間が無い。  
すいません言い訳です

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4708r/>

---

壊滅的な災害

2011年10月8日20時54分発行